フィリピンワークキャンプ報告
2008
FIWC 九州

Water System Project in Matag-ob

＜目次＞

２．　目次

３．　Matag-ob(とっくん)

３．　フィリピンキャンプの流れ(とっくん)

４．　前回のキャンプ(だいどー)

５-６．下見キャンプ(だいどー)

６．　国内合宿(こんちゃん)

７-9.　先発隊(ゆみこ)

9-14.　今回のプロジェクト Mansaha-on/San Sebastian(いっしー・クリちゃん)

14-16.　Welcome Party/Farewell Party(くろっきー・たろー)

16-17.　Japanese Festibal（さよこ・うーさん）

18-22.　村での生活 [共同生活・ホームステイ](かよ・れいこ)

23.　キャンプ T シャツ(だいどー)

24.　NorWeLeDePai(なみ)

25-27.　保健(のろ・ちゅーまん)

28-29.　会計報告(サリー)

30.　遊び [Lane Beach/セブ島](じょえ)

31-36.　他己紹介

37-39.　感想

40.　各連絡先(なみ)

編集：だいどー・とっくん・さりー

＜Matag-ob＞

Cebu 島からスーパーキャットというフェリーに 2 時間半くらい乗ると、Leyte 島の港町、Ormoc に着きます。そこからバスに乗って１時間くらいかかったところに Matag-ob という市のような所があり、Matag-ob の中心から、ハバルハバル（最大で 5 人くらいまで乗れるバイク）で 5 分の所に Mansaha-on 村、15 分の所に San-Sebastian 村があります。

また、市場（Matag-ob）では日常生活に必要だと思われるものをいつでも購入できます。

言語は、主に英語とタガログ語の方言であるビサヤ語です。

＜フィリピンキャンプの流れ＞

事前準備

４月：リクルート。チラシを制作し、説明会を行い、新旧メンバーに各行事への参加を促す。

７月：下見メンバー確定

- 下見前にすること
  1. 航空券予約
  2. 承諾書に親のサインをもらう
  3. 詳細なスケジュールを、昨年の下見参加者とともに検討
  4. NorWeLeDePai にスケジュールや計画を連絡
  5. 現地での滞在先に連絡

６． 初フィリピンの人へ持ち物や予防接種の案内

７． 保険加入

8 月 31 日：下見出発月

9 月 18 日：下見帰国

9 月：下見報告書作成、報告書

9 月下旬～：チラシ作成（説明会日程を書く）、メンバー集め

12 月～：係りを決めて、ミーティング（3 回）

航空券予約

2 月：国内合宿、先発隊出発

3 月：本キャン

4 月：報告書締め切り、報告会

・ 本番前にすること

下見の 1～7 に加え

８． Japanese Festival の内容決め

９． キャンプのテーマとテーマソング決め

＜前回キャンプ＞

キャンプ地：マタグオブ市マンサハオン村

期間：3 月 7 日～21 日

内容：パイプを通すための溝掘り

パイプの交換

ギンカシンガン(地域名)に新しいタンクを作る(現地人のみ)

前回のワークでは、水源から 1.6km の部分を、元からあった 2 インチ PE パイプから 3 インチ uPVC パイプと大きいパイプに交換し、村に届く水量を増やした。

また、それまでバランガイホールのそばにあるタンク(比較的お金持ちの地域に存在）に繋がっていたパイプを、村の中央の使われていなかったタンク(New Main Tank。山の上にある。)に繋ぎ、そこからバランガイホールそばのタンク、マロノッドのタンク、新しく作ったギンカシンガンのタンクに分配するようにした。そうすることで、村全体に水をひくことができるからだ。

この結果、最終日に少量ながらも New Main Tank まで水が届いていることが確認できた。

反省点：

Mansaha-on の現在の状況の項で触れるが、我々が現地を発った後に、New Main Tank に繋がれていたパイプは元の中心部(バランガイホールの近く。バランガイプロパーと呼ぶ)のタンクに繋ぎかえられ、結果として 2 つのシティオ(マロノッド・ギンカシンガン)に水は届かなかった。繋ぎかえた理由は New Main Tank に届く水量が足りず､中心部と 2 つのシティオに分配することが出来なかったからとのことであった。

この件に関して、2 つの異なる話が聞けた。

1 つ目は、New Main Tank からの分配を、中心部・マロノッド・ギンカシンガンの 3 つのローテーションによって行うことで、常時ではなくとも各地域に水が分配されるように決定したところ、とある有力者の一家(水を得るために多額のお金を払っている)がそれを拒否したため、現在の状況に至ったというもの。

2 つ目は、New Main Tank に到達する水量が乏しかったため、全体が水不足になるくらいなら中心部だけでも水不足にならないようにと思い、前述の村の有力者が水を中心部のタンクに繋ぎかえるように進言したというものである。

真相のほどはわからないが、下見と先発の段階で、New Main Tank まで到達する水量が十分であるか、そして村の中で裕福な地域と貧しい地域の間でワーク後に問題が発生する可能性を調べておかなかったのが問題であったといえる。

＜下見キャンプ＞

[今回の下見キャンプ]

今回の下見キャンプは、もともと FIWC 九州のメンバー8 人と現地 NGO である NorWeLeDePai とで行う予定だったが、日本出国直前に、1999 年～2006 年まで FIWC のキャンプをサポートしてくれていた、レイテ島のエンジニアであるロクロクさんが急遽私たちの下見に参加してくれることが決まった。そのため、今回の下見キャンプは、ロクロクさん、NorWeLeDePai の 2008 年度 FI 担当のマイケルのサポートのもとで行った。

＜今回の本キャンプに向けた、下見キャンプの流れ＞

①Net Working 作り　(出国前～９月３日)

・FIWC と協力体制をとっている現地 NGO の NorWeLeDePai を訪問・ミーティング。

・滞在する村がある市(Municipality)の市長を訪問。(表敬訪問)

・エンジニアとコンタクトをとる。(今回の場合はロクロクさん)

②村調査(survey)　(９月３日～９日)

NorWeLeDePai や市長などから紹介してもらった村に赴き、そこの村長と、村の問題やその問題に対する FI のアプローチについて話し合った。その後、実際にその問題と関わる場所(今回は水道なので、井戸・水源・タンクなど)を村人と共に歩き回る。(現地語ではソロイソロイという。散歩。) この段階で、プロジェクトの概要を想定しておく。

※　この段階ではどの村でプロジェクトをするのかは決めない。村長にも「まだ調査中で、本決定ではない」と伝えておく。

③仮決定（９日～１１日）

村調査を行ったサンセバスチャン(新しく訪問した村)とマンサハオン(前回プロジェクトを行った村）を比較し、実際に本キャンプを行うワークサイトをどちらにするかということでメンバー内でミーティングを行った。その結果、

Ａ．マンサハオンの問題を未解決のままにはしておけない

Ｂ．新しい村でのワークを行いたい

Ｃ．どちらの村の問題も見過ごすことはできない

Ｄ．村同士がそこまで離れていないので、ワーク地を 2 つに分けて行うことは可能である

という 4 点から見て、いずれの村でもワークを行うことを決定した。その後、両村長にプロジェクトを行うことを伝え、General Assembly Meeting(G.A.)を行うことを要請。

④General Assembly Meeting(G.A.M.)の開催（San Sebastian:１２日　Mansaha-on:１４日）

村全体のミーティング。ここでプロジェクトの本決定を村人全体に伝えた。

このミーティングには、FIWC,・NorWeLeDePai,・エンジニア全てが参加するのが望ましい。

⇒その後、エンジニアや村長たちと共に、資材・資金の見積もりを行う。

⑤信頼・情報・関係作り（G.A.M.以降）

G.A.の後は、可能な限り村をソロイソロイ(散歩)することで、来年の本キャンプに向けた情報収集や、ＦＩと村人の関係を作った。

＜国内合宿＞

とき：２００８年2月１６、１７日

場所：篠栗町高田公民館

会費：２０００円

参加メンバー：チャイナキャンパー、フィリピンキャンパー、ＦＩＷＣのＯＢ

内容：フィリピンキャンプ直前ミーティング

総会(次年度の役員決め)

今年の篠栗の高田公民館で行った合宿では、ＯＢの人たちや中国キャンパー、フィリピンキ

ャンパーの人たちが多く集まった。合宿では先発隊出発前の最終ミーティングを行ったのだが、このときは過去のフィリピンキャンパーも来ていたので、過去のキャンプの話なども聞くことが出来た。一部来られない人もいたが、ミーティングでは、現地で行うジャパニーズフェスティバルなどの詳細なプログラムなどの内容、補助金についてなどを話し合った。他には現地で披露するダンスの練習なども行った。

＜先発隊＞

フィリピンキャンプは先発隊・本隊と、キャンパーを二つに分ける形をとっている。先発隊は本隊より先に現地入りし、ワークを始める準備、共同生活やホームステイなど生活環境を整えるための準備をするなどワークキャンプを中心となってつくる部隊のことである。そして本隊が現地入りして､すぐにワークが開始される。今回は８人が先発隊として本隊より９日早くに現地入りした。

期間　２月２２日～３月２日(１０日間)

先発隊が行ったこと

・ノルウェル・市長・バランガイオフィシャル・ロクロクさんとのミーティング
・ワーク地の視察・ワーク内容の確認
・General Assembly Meeting
・資材の発注・届いているか確認(どこにあるのか、間に合うのか)
・ホームステイ先の視察・選考
・ビザ取得
・T シャツ製作・発注

先発スケジュール

				２２ 出国 Cebu 泊	２３ Norwele で MTG	２４ 休日
２5 official と MTG・市長 表敬訪問	２6 資材発注	２7 GAM in Mansa	28 GAM in sanseba	29 タクロバン でビザ取得	1 ワーク地 視察	２ ホームステ イ先の視察 ・選考

スケジュールに関しては、現地に到着してからロクロクさん、ノルウェルと予定を調節しながら決定した。今回ノルウェルが事前に村のバランガイオフィシャルと話し合い、前回の我々のキャンプにおける問題点を提起したり、市長及びバランガイオフィシャルとのミーティングを手配してくれていたので、村での生活における我々の問題点を明らかにすることができ、それを改善するための取り決めをするに至った。(以下詳細)

FIWC の問題（ ２/２３ MTG ）

ノルウェルが前回のキャンプ地マンサハオン村のバランガイオフィシャルと事前に話し合い、マンサハオン村での FIWC の滞在における問題点を調査し提起してくれた。

①門限は１０時（ホームステイ中は滞在先の門限を守る）

②フィリピンの文化を尊重する

— 露出した服を着てはいけない

— 女はマリーゴを隠れてしなければならない

— 子どもたちに乱暴及び危険な行為をしてはいけない

バランガイオフィシャルと FIWC の決定事項（2/２５ MTG）

Do’s（ FIWC がすべきこと）

・sign every time which travel

・curfew(門限)－10:00 in the evening

・ask permission to council when attending activity

・don’t give anything to children

・let anyone can’t enter the FIWC rooms expect the member

・don’t drink outside of the room

— お酒は一杯まで

— 酔っ払いがいるカラオケなどには入ってはならない

※バランガイカウンシルがいる場所は例外となる

General Assembly Meeting の内容

・FIWC の説明
・ワークについて説明（開始日・バヤニハンシステム）
・ホームステイの日程
・ワーク中の昼食のお願い
・ウェルカムパーティとフェアウェルパーティのお願い
・Japanese Festival の日程・内容
・ビデオの撮影の承諾
・門限の設定

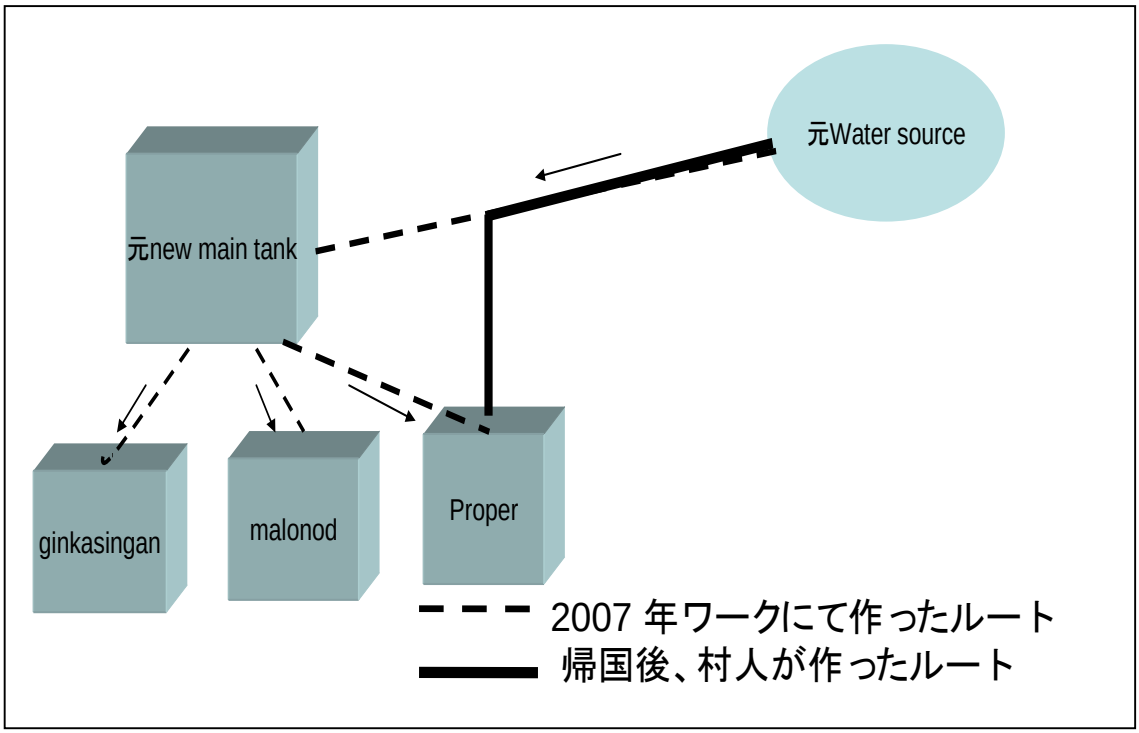
なお Mansaha-on 村に関してはギンカシンガン地区とマロノッド地区の二ヵ所で General Assembly Meeting を行った。

＜ワークの内容＞

[Mansaha-on]

１.ワーク前の水状況

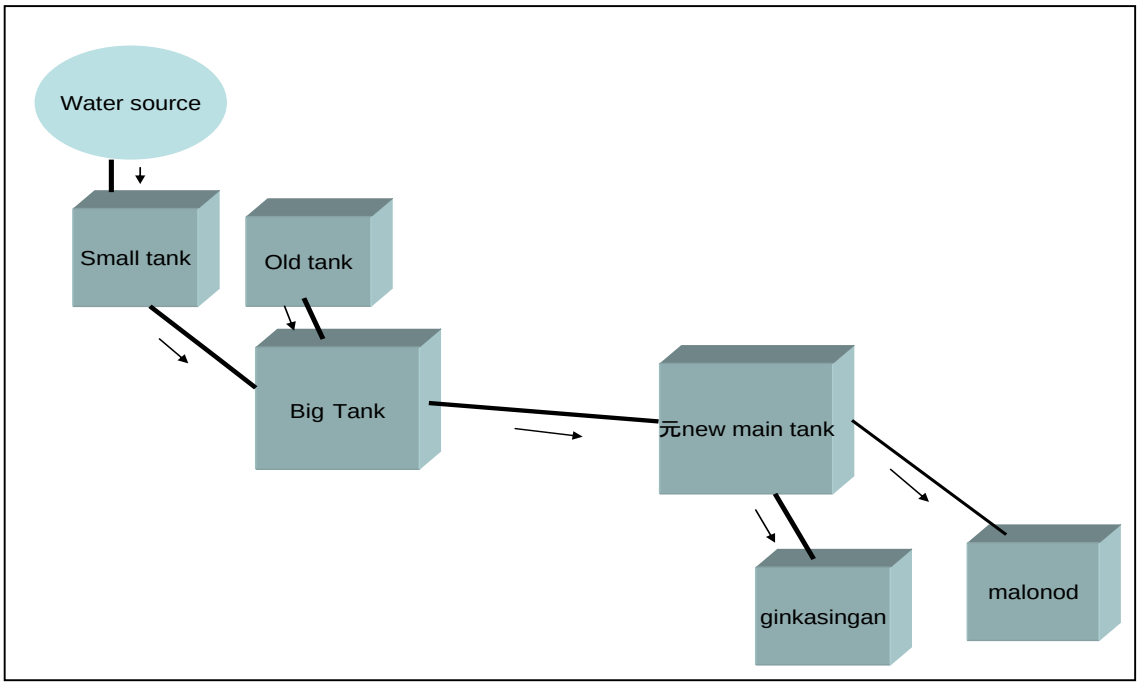
2007 年度キャンプ地であったマンサハオン村。昨年のワークにてマタグオブ市のエンジニアの協力の下、下図の点線箇所を水のルートとして建設した。村から５キロほど離れた元 water source から村の中心にある元 new main tank に繋ぎ、村の各集落に分配させるというもの。しかし高低差の問題から、スムーズに元 new main tank に水が届かず。メンバーの帰国後、村人が proper のタンクに直接水が届くようにパイプを繋ぎ換えていた。そのため元 new main tank は空のままで、 ginkasingan と malonod には水が行渡っていないという状況。



２．ワーク概要

FIWC、NorweleDepai と提携をとっているエンジニアの loklok さんの協力の下、新たに見つかった water source から ginkasingan と malonod に水を行渡らせるプロジェクトを発動。ワークの構造は下図の通り。

１．Small tank と big tank の建設
２．Small tank、old tank それぞれを big tank とパイプで繋ぐ
３．Big tank と 元 new main tank をパイプで繋ぐ
４．各タンクの掃除、昨年埋めたパイプの修復
５．パイプを埋める



３．資材と費用

資材		価格/１つ(peso)	計
1 P.E.pipe	×10	5.400	54.000
10 mm bar	×15	148	2.220
9 mm bar	×15	95	1.425
Pozzolan cement	×20 bags	185	3.700
Tie wire	×4	60	240
1/4 ord plywood	×1	285	285
Nipple 3/4	×9	30	270
Nails 1 1/2	×1kl	52	52
Nails 2 1/2	×1kl	50	50
Nails 4	×1kl	48	48
Sahara	×4 bags	28	112

Nipple 1×20	× 3 pcs	85	255
Ball valve	×1 pcs	180	180
Cocolumber 2×2×8	×20pcs	33.50	670
Pick	×2	230	460
Sand	×3	800	2.400
Hallow blocks	×100	8	800
Total			67.167

資材代　67.167 ペソ

内訳
- 47.167 ペソ　FIWC 九州
- 20.000 ペソ　BRGY. Mansaha-on

※BRGY に　1 P.E. pipe　×　4 rolls（21.600 ペソ）　購入してもらい、カウンターパート 20.000 ペソとの差額を後日返金する形をとった。

４．村人へのイントロ

先発時に malonod と ginkasingan の両集落にて general assembly meeting を行った。

内容
- FIWC について
- プロジェクト概要
- バヤニハンの必要性

各集落に毎日 10 名のバヤニハンを派遣することを約束してもらい、今プロジェクトは FIWC のものではなく村のものであると理解してもらうように努めた。

５．ワークを終えて

今プロジェクトは2007年キャンプと2008年キャンプの二年がかりの総体制であった。Water source 周辺のぬかるみが酷く、ワークが重労働になっていたときもあり、それぞれ健康管理が大変だったキャンプだった。時間の問題でパイプをカバーし終えるのを見届けることはできなかったが、ginkasingan、malonod 両集落に水をいきわたらせることが出来た。メンバー帰国後も毎週土曜日にバヤニハンがワークを続けるとのことで、夏までには完成したワークを確認することが出来るだろう。問題点としては、収穫の時期と重なっていた為、バヤニハンが想像以上に少なかったことである。

[San Sebastian]

ワーク期間：3 月５日～3 月１７日

１．ワーク内容

① 水源にあるブルーパイプをコンクリートでカバーした。
→このブルーパイプは水源に直結しており正に核となるパイプである。しかし多少の破損箇所が見られたため、コンクリートでカバーすることにより、破損部分の修復、そしてパイプ全体をより強固にした。

② 水源付近の川の両端に石を積み上げ、コンクリートでカバーした。
→雨季に川が氾濫するのを防ぐため。

③ 水源の上にある川の片端にコンクリートで 50cm×15cm×15m 程の防壁を作った。
→雨季による大雨で、周囲から泥水が川に流入することを防ぎ又川の氾濫を防ぐため。

④ 水源付近のパイプを新しい太いパイプに換えた。
→以前の水源付近のパイプは細く、そして細切れになっていたが、太くそして長いパイプに換えることにより水量を増やした。

⑤ 地面に剥き出しになっているパイプを地中に埋めた。
→パイプの破損を防ぐため。

⑥ 余ったパイプを使用し、今まで水の通ってなかった小学校や、集落にパイプを引き水を通した。
→これは小学校や集落からの要望があり、また私達のワーク日程的にも余裕があったため実現した。

以上のワークを行った。

２．問題点

① パイプの繋ぎ目や、破損箇所から、水が漏れることがよくあった。

② 現カピタンとは違う派閥の者や、私達のプロジェクトに反対するもの、もしくは泥酔者と思われる者が地上に通したパイプを数箇所傷つけた。

③ カピオンのタンクに繋いである、ex.council 行きのパイ

プと pitoy さんを含む７軒の集落に行くパイプが何者かによって繋げ換えられた。

３．解決策

① 以前までは一時的な補修でラバーを使い水漏れを防いでいたが、セメントが余ったのでそれを使って補修するとの事。

② 地上に埋めるのがベストではあるが、現段階ではパイプの長さが足りず地上を通すことしかできないため、竹でパイプをカバーする。

③ タンクとパイプの繋ぎ目の周囲を竹の柵で囲う。

②③に関しては実質的な解決策ではなく牽制の意味を踏まえた予防策であるといえる。

４．購入した資材

資材	金額（ペソ）
1.25P.E pipe×2 rolls	10,400
1.5P.E pipe×6 rolls	48,300
1P.E pipe×1 roll	5,400
pono cement	3,700
nipple1×6　×5pcs	275
pick×2	460
shovel×6	1,320
sand	2,400
total	72,255

内訳　45,705（FIWC）

24,150（San.Sebastian）

Shovel 2 本　pick 1 本が　壊れて、使用不可能になる。

残りの道具はバランガイホールで保管している。
なお、セメントが余った為、購入先に持って行き、hallow block に換えてもらうとの事。それを使用し、カピオンに水浴びや洗濯用の小さなタンクを作るとの事。

５．プロジェクトを振り返って

まず、当初の予定通りプロジェクトを終えることが出来て凄く嬉しい。それに加えて予定以外の小学校や、水の無かった集落にもパイプを通すことが出来てよかったと思う。米やココナッツ収穫の忙しい時期であるにも関わらず、レニーボーイという現地のワークリーダーやエンジニアのロクロクさんを中心に多くのバヤニハンが協力してくれた。実際にワークをするにあたって、意外な所でパイプがコネクトされていたり、埋まっていたりで少し困惑した。下見の時に見落としていたタンクや集落があり、反省材料も多くある。また、パイプを破壊する者や勝手に繋ぎかえる者がおり、残念であった。しかしこれは私達のプロジェクトになんらかの不満を持つ者がいると言ってもよいだろう。やはり村人全てに利益が行くようなフェアーなプロジェクトをする事の難しさを痛感した。私達の力は僅かなものであるかもしれないが、目に見える形で成果が表れたので努力が報われた気がした。今後もプロジェクトの経過を見ていく必要がある。

＜Welcome/Farewell Party＞

○Welcome party

3 月 3 日：San Sebastian　4 日：Mansaha-on

ウェルカムパーティは、日にちを一日ずらすことで全キャンパーが両方の村のパーティに参加した。
その際、自分の村でないキャンパーたちは 23 時ごろに San Sebastian の村長の車で自分の村まで送ってもらった。

Mansaha-on/San Sebastian

昼頃から村人によって準備がすすめられ、大きなスピーカーや、照明器具がとりつけられ、テニスコートが一夜限りのディスコと化した。

初めのうちは少なかった村人の姿も徐々に増えていき、日が暮れだした 18 時半には大音量で音楽がなりはじめ、Welcome party が始まった。

パーティプログラムに従い進行していく。まず、

オフィシャルの方が数名あいさつをし、続いて私達も一人一人自己紹介をした。次に、私たちが島唄とダンスを披露した。現地の人は歌の歌詞は分からないだろうが、聞き入って居る様子だった。それがおわると、Mansaha-on では村の 5 組程度のダンスグループがダンスを披露してくれた。十代後半の子から二歳か三歳の子までどれかのグループに属しており、小さい頃から常にダンスと関わっているせいかどのグループもそれぞれ上手かった。それが終わるとみんな自由に踊ったり、現地の人と会話をしたりと、各々楽しんでいたようだ。

○Farewell party

Mansaha-on

この日は朝から、豚を一匹丸焼きにしたり、子供たちは髪をまいたり、掃除をしたりと、朝から準備が進められていた。夕方前、タンクにＦＩWC メンバーの名前を書きに行き、帰ってくると、大きなステレオが届き、ミラーボールや、ブラックライトなどの照明器具がとりつけられ、Welcome party 同様、テニスコートはディスコと化した。

午後６時半、夕食に招かれ、食事をいただいた。昼焼いていた豚が食卓に並んでいた。その他とても豪華な食事を御馳走していただいた。食事も終わり、午後７時半、farewell party が始まった。

プログラムに従い、パーティが進行し、私たちのあいさつの番で、ＦＩＷＣメンバーが一人一人ステージにあがり、ホームステイ先のナナイ(母親)に感謝の気持ちを伝えた。涙がこみ上げてくる者もいれば、笑顔で別れを告げる者もいた。

その後私たちは、島唄をアカペラで歌った。現地のひとに歌の意味を理解できた者はいないだろうが私たちの愛はとどいただろう。

フェアウェルパーティにおいてもウェルカムパーティと同様、いくつかのグループがダンスを披露し、その後は村人との別れを惜しみながら、子供も大人もみんな一緒になって、私たちは出発の朝まで飲み、踊り明かした。

San Sebastian

サンセバでの最後の夜。

ウェルカムパーティ並みに多くの村人が、忙しい中フィリピノタイムでやってきた。昼間から準備が行われていた豚の丸焼き、フィリピンにもあったのかと驚きを隠せなかったカルボナーラとナポリタン、多くの料理が用意され、本当に感無量であった。

村長の話や子供たちによるダンスのお披露目、私たちのワークの表彰、互いの国歌を歌い、一気に食べ

飲みが始まり、恒例のディスコの幕開け。素晴らしい時間があっという間に過ぎていった。

リメンバランス(思い出の品)の交換をするたびに、これでお別れなんだという気持ちが胸にドッとこみ上げてきた。村人みんなの優しくも切ない言葉の一つ一つに、涙をこらえきれない日本人が多かった。あの感動は一生忘れられない。Salamat…

タンドゥアイ(ラム酒)、キャンパーの涙、トゥバ、心地よい汗、溢れた感情は単純にこぼれる涙、止めずに泣いて帰るまで…。そして、朝まで宴は続いた。

こうして、長かったようで短かったキャンプは、終わりを告げた。

＜Japanese Festival＞

Mansaha-on … 3月 8 日(土)

San Sebastian … 3 月 15 日(土)

【目的】

日本の文化を通しフィリピンの子供たちと交流する。

【概要】

以下5つをブースに分けスタンプラリー形式で行った。

- 紙ヒコーキ、書道→各々が作った紙ヒコーキに、漢字の当て字を習字で書いてとばす。
- ボーリング→ペットボトルを立ててピンにして椰子の実をボールの代わりに使用。
- 竹とんぼ→日本で竹とんぼを準備し、現地で使用。
- 輪投げ→空き瓶を的に、輪はMansaha－onでは新聞紙を、San－Sebastianでは葉っぱを　輪っか上にして
- 射的→割り箸と輪ゴムで鉄砲を作る。紙に的を書いて実施。

(・ べっこう飴→砂糖を溶かして作る。)

それぞれのゲームを回るとスタンプをもらえるようになっており、スタンプが3つたまった人から、べっこう飴、パン、ジュースを配る。

※ スタンプラリーにした理由：みんながまんべんなくすべてのゲームを体験できるようにするため。また、特定のゲームに人が集中するのを防ぐため。

【良かった点】

- 雨天時でもみんな臨機応変に対応できた。
- FIメンバーも参加者も楽しんでいた。
- 村人との交流が深まった。

【反省点】

- 情報の共有がよくなされていなかった。
  ⇒各ブースにアルファベットの番号を振ってスタンプラリーの順番を確認するようにしていたが、そのことを把握していた人が一部だけだった。（みんなに連絡できていなかった。）
- イベント係がSan-Sebastianに集中していたこともあり、直前のイベントのミーティングはSan-Sebastian内だけでしていた。
- 国内・フィリピンでのミーティング不足
  ⇒Japanese festival の FI としての目指すところ（方向性）はあったのか。
- （臨機応変に対応できてはいたものの）雨天時の計画がされていなかった。

⇒前もって考えていたらもっと良いものができたのでは？？

＜村での生活＞

○Mansaha-on

[共同生活]

期間：　３月３日(月)～３月９日(日)

【設備】

デイケアという小さい子に勉強を教える施設を借り、共同生活中は蚊帳を張り、キャンパー１０人でゴザの上に雑魚寝をする。トイレ（水道あり）は設置してあった。

マリーゴ(水浴び)は、早朝に村人の家のタバイ(井戸)を借りてする。

村の広場兼バスケットコートがすぐ隣にあったため、村人とよくバスケをしている時もあり、子供たちや村人がほぼ常に近くにいた。

【食事】

３人ずつ食事係を決め、その日の夕食と翌日の朝食を決まった３人が作る。米は村人の家の炊飯器を借

りて炊き、おかずは台所を借りて作っていた。ただし、朝食はふりかけが多かった。食事代は共同生活全体で 700 ペソ(1 日一人当たり 10 ペソ)

【約束事】

・　起床時間は 6 時。

・　消灯時間は 22 時。それまでに就寝の準備を終わらせる。

　＊24 時までデイケアの外で、バランガイポリス(村の警察)が警備をしてくれていた。

・カピタンとの約束で部屋の中にはキャンパー以外の者は入れてはいけない。

・外出時(Work 時など誰もいない時)は必ず鍵を閉める。

・貴重品は必ず自分で持っておく。

問題点：　体調不良やケガで Work に行けない者が出た場合、1 人で留守番させていた。最低でも二人以上はいた方がいいのかもしれない。

[ホームステイ]

期間：　3 月 10 日(月)～3 月 19 日(水)

【選出方法】

先発期間にソロイソロイ(散策)をして、ホームステイを受け入れてくれる家庭を調べた。ホームステイ先の選出基準は、前回のキャンプと同様、NorWelDiPai が提携を結んでいる World Vision の Registered Children(NorWelDiPai がサポートしている子供)がいる家庭に定めていた。また今回は、それ以外の家庭から、是非ホームステイしてほしいといくつかオファーを受けたが、富裕層の家庭であったため、日本のような快適な生活を希望しないキャンパーと一般の村人からの印象を配慮して、先発隊で話し合った結果、それらは却下となった。

これは、NorWelDiPai がホームステイ先に要求した規約書の内容である。

１．　家族と同じ扱いをすること。特別な待遇や準備は必要ない。
２．　キャンパーのプライバシーを守ること。特にマリーゴ(水浴び)をする時と寝る時。
３．　ホストファミリーと一緒にいる間は、キャンパーのセキュリティーに気をつけること。キャンパーは自分と持ち物を守るようにするが、ホームスティ先にもできる限り気をつけてほしい。

ホームステイ先が決定したら、キャンパーとホストファミリーはこれにサインをし、NorWelDiPai に提出する。

結局、シティオギンカシンガンから５軒、シティオマロノッド５軒を候補にあげ、その中からホームステイが始まる前までにメンバーはソロイソロイをし、自分が滞在したい家を決めた。シティオギンンカシンガンに５名(１人×３軒、２人×１軒)、シティオマロノッドに４名(１人×２軒、２人×１軒)が滞在することになった。

今回は、どのホームステイ先にも電気が通っており、テレビ、ステレオがあった家も多かった。また、村人は私達の滞在を快く歓迎してくれた。

【ホームステイをするにあたって】

２人組→７５０ペソ、１人→５００ペソずつメンバーに会計から支給し、それを使って食材を買い、ホームステイ先に渡した。これは、ホームステイをさせてもらえるにあたって、無償で受け入れてくれるホストファミリーの食費の負担を減らす為である。また、現金でなく食材を渡す理由は、ホームステイをしている家庭とそうでない村人の金銭的なトラブルを防ぐ為である。

【一日の生活】

朝は近くのタバイ(井戸)でマリーゴ(水浴び)をする。その後、ホストファミリーが用意してくれた朝食を食べる。そして、ミーティングを経てワークへ行く。夕方には帰宅し、朝食と同様、ホストファミリーと一緒に夕食を食べる。主食は米であり、豚や魚、野菜スープ、ビーフンなどを食べる。その後は自由時間。近くの家などでメンバーや村人が集まり、一緒にトゥバ(ココナッツワイン)やビール呑んだり、踊ったり、歌ったりする。中には、子供達に折り紙を教えたり、一緒にテレビを見ていたりしたキャンパーもいた。

カピタン(村長)との約束で、セキュリティー上門限は十時と定められていたため、全員それまでには家に

帰り、就寝して次の日に備える。

☆ホームステイによって、共にワークするだけでは分からないフィリピン人の生の生活を体感することができ、村人との距離も断然近くなることができる。フィリピン文化を肌で感じ、日本の文化を伝えることで、お互いの文化をシェアし、相互理解が深まる。現地の村人の家にホームステイをするということは、FIWC のフィリピンキャンプの最大の魅力の一つであると言えるだろう。

○San Sebastian

[共同生活]

期間： 3 月 3 日(月)～3 月 9 日(日)・3 月 19 日(水)

キャンプ開始からホームステイ先に移る 3 月 10 日まで、San Sebastian のバランガイホール(村所有の建物)で共同生活を行った。宿泊は、男女に分かれ近接している二つの建物を使用したが、食事、MTG はキャンパー全員で行った。

【設備】

寝る場所はベッドやゴザを村人が用意してくれた。トイレは二つの建物にあった。その内一つの建物には水道も通っていたため、リーゴ(水浴び)もそこで行えた。調理所は建物のすぐそばにあった。食事や MTG をキャンパー全員で行えるホールのような場所もあったので、MTG 以外のときは村人も交えてそこで遊んだりしていた。

【一日の流れ】

朝起床しリーゴをして、村人につくってもらった朝食を食べ終わってから、8～9 時ごろにワーク地へ向かう。12 時頃にまた共同生活場所へ戻り、昼食、片付けをすませ、午後のワークを開始する。5 時頃にワークを終え戻るとおやつが用意されていることもあった。夕飯もほとんど村の人がつくりに来てくれていたので、夕飯まで休憩をとったり、村人と過ごしたり、食事の手伝いをしていた。夕飯を皆でおしゃべりをしながら食べた後は、じゃんけんやゲームをしながらその日の片付け当番を決定していた。夕飯後には MTG を行い、その日のワークのこと、Japanese Festival の進捗状況、翌日の予定等についてキャンパー皆で話し合う。MTG 後から

10 時の就寝時間までは各自村人や子供と話したり、翌日の準備をしたりしていた。

【安全面】
もともとの宿泊予定地には鍵が二重でつけられるようになっていたが、もう一方の宿泊地は鍵が外側からしかかけられなかった。夜はバランガイポリス(村の警察)が毎晩 2 人ほど来て、10 時前から夜中ずっと見張りをしてくれていた。

☆共同生活は村人の協力なしには語れないほどお世話になった。朝食、昼食、夕食と時にはおやつまで用意してもらい、村長を始めとする村人に常に気を使ってもらっていた。
毎日村の人が集まり、キャンパー、村人との(ときどきお酒も交えて)交流を深めることができた。朝から寝るまで(時々お酒を飲みながら)村の人と過ごせ、とてもいい経験ができた。

[ホームステイ]

期間：　3 月 10 日(月)～3 月 18 日(火)

【メンバー振り分け】
男：一人ステイ×3、二人ステイ×1
女：一人ステイ×1、二人ステイ×2

【選択方法】
とにかくサンセバは広い! Matag-ob に近い村の下方地域(カピオン)へもステイし村中に日本ブームを起こしたかったが、ワーク地まで遠いのでステイ先は、村の上方地域(プロパー)中心になった。ステイ先は FI と村長(カピタン)で散歩し一軒ずつ家族構成を調査し、メンバーの希望先をカピタンに相談し安全面、環境を考慮し決定した。決定したほとんどの家にトイレ、水が届いていた。

【ステイ中のスケジュール】
6:00 起床、水浴び、ステイ先で朝食
8:00 ミーティング後、Work 開始
12:00 昼食(Brgy ホール)
13:00Work 再開
17:00Work 終了

ステイ先で夕食、フリータイム

22:00 門限、就寝

【ホストファミリーとの交流】

ステイ先では、日本料理を作ったり、日本のおもちゃで遊んだり、日本語を教えビサヤ語を習ったり、ファミリーと一緒に歌ったり飲んだりとメンバーそれぞれの方法で交流を通し、仲良くなることができた。

＜キャンプ T シャツ 2008＞

原案：サリー

原画：だいどー

【T シャツ作りの流れ】

・ 原画の決定。
・ NOVO という何でも屋で、無地の T シャツを購入。
・ PRINT SHOPPE という印刷屋で、プリント依頼。この際、仕上がりまでのスケジュールを確認する。
・ 数日後に原画をデータに起こしてもらった後、再び店に出向いて配色・フォントを決定する。
・ 受け取り・支払い。

今回の T シャツのテーマは、2008 年度キャンプのテーマである「愛」である。フロント側は、日本人とフィリピン人が肩を組み、もう片方の手でハートの形を作っている。背面はキャンプに参加したメンバーの名前、ショルダーには日本とフィリピンの国旗を配した。

＜NorWeLeDePai について＞

現地ＮＧＯとの協力体制

FIWC 九州は、2004 年の下見から、現地の Northwestern Leyte Development Parent's Association Inc. (NorWeLeDePAI)という NGO 団体と協力体制をとっている。しかし、正式なパートナーシップを結んだことはなかった。そこで今回初めて、お互い代表が書面にサインしあうことで、NorWeLeDePAI と FIWC 九州のパートナーシップを正式に結んだ。NorWeLeDePAI との絆を強固にしたことで、設立４年目の若い団体である FIWC 九州の体制がようやく整ってきたのではないかと思う。

今回結んだ正式な Partnership Agreement は、FIWC と NorWeLeDePAI の間だけでなく、BRGY(プロジェクトを行う村)を含めた三者の間で結んだ。今回は二つの村でプロジェクトを作ったので、マンサハオン村・サンセバスチャン村でそれぞれ契約書にサインした。

Agreement 内容を大まかにまとめると、

・NorWeLeDePAI：FIWC の活動を全力でサポートする。
・FIWC：NorWeLeDePAI の"Child Protection Behavior Protocols"に従う。
・BRGY：FIWC の安全を守る。

一つでも Agreement 違反があれば、パートナーシップは即座に終了してしまう。今回、Agreement 違反は一つも見られなかった。

※重要※

フィリピン出発前に、必ずメンバー全員に NorWeLeDePai について、"Child Protection Behavior

Protocols”について、Parnership Agreement について、詳細に説明する。今回それを怠っていたために、NorWeLeDePai と FIWC の間で誤解が生じ、パートナーシップ終了の危機に陥ってしまった。(その後、誤解は解消され、パートナーシップは現在も続いている。)

団体紹介

Northwestern Leyte Development Parent's Association Inc. (NorWeLeDePAI)
レイテ島北西部の村々で、子供たちの両親が中心となってコミュニティの発展を目指す活動を行う地域のＮＧＯ団体。世界的なＮＧＯである World Vision のドイツ支部が資金援助をしている。

具体的活動内容は、

- 貧困家庭の子供とドイツのスポンサーを結ぶ（スポンサーは子供が学校を卒業できるように金銭的、物質的援助をし、同時にスポンサーと子供との間で文通をしたりして文化交流を図る。）
- 地域のリーダー育成（村人が開発プロジェクトを自律的に運営できるようにする。）
- 子供への環境教育などのイベント
- キリスト教の布教
- 生活状況改善のためのプロジェクト（安定した収入源の確保、農業、学校設備、インフラ整備に関するプロジェクト）

＜保健＞

１、医療バッグについて

今回、医療バッグは大いに役立った。山でワークをすることもあり、切り傷や擦り傷などが多かったが、医療バッグのおかげで、傷口を清潔に保てたので、傷口がひどく化膿するといったこともなかった。また、下痢や便秘になる人が多かったので、整腸剤も役にたった。さらに、ハバルによるやけどや長靴による靴擦れも多かったので、オロナインも医療バックに入れておくべきだった。マンサホンでは、オロナインがなかったため、しんちゃんが持ってきてくれたモクスが非常に役に立った。

今回の医療バッグの中身は、体温計・滅菌ガーゼ・消毒液・ひえぴた・包帯・風邪薬・整腸剤だった。

２、キャンプ中の体調・衛生管理について

今回も体調不良者が続出した。リーゴについてロクロクさんに教えられたのは、日が落ちた後にリーゴをしてはいけないということだ。ワークで疲れている体に冷水をかけるため、体温を奪ってしまい、疲労度をさらに高めてしまうらしい。ワークで泥だらけになったとしてもタオルで体を拭く程度にして、翌日までリーゴはがまんするべきだ。体調管理に関して、体温や食欲、便の有無や下痢ではないか、疲労度はどれほどかなど、自分の日々の健康状態を知るためにも体調のチェックシートを作成したほうが良いのかとも思った。そうやって、その日のワークを体力的に調節して、疲労を溜め込むのを防ぐことができるのではないかと考えた。衛生管理については、医療バッグもあったおかげで極力衛生につとめることができたのではないか。しかし、共同生活を行うため、きれい好きの人のためにも個人の荷物は勤めて整理整頓されるべきであると思う。また、トゥバでおなかを下してしまうメンバーもいたので注意が必要である。

３、症状の詳細

・発熱（いっしー）

原因：疲労、夜のリーゴ

症状：発熱（４０℃）

治療：病院で診てもらい、薬をもらった。

対策：適度に休んで疲れをためない。汗をかいた直後のリーゴは避ける。

・傷口の化膿（かよ）

原因：虫にさされたところをかきむしりできた傷口や、切り傷から菌が入ったと考えられる。

症状：傷口が化膿して、患部が腫れる。周辺に痛みを伴うことも。

治療：抗生物質の塗り薬、飲み薬による菌の死滅。破傷風を防ぐための注射。

対策：虫にさされたところをかきむしらない。傷をこまめに消毒する。

・切り傷（とっくん）

原因:子供と窓ガラス越しに遊んでいた際に、窓ガラスが壊れて、それにより前腕部を長さ３～４cm、深さ１cm ほど切っ

た。遊んでいた子供は無事。

治療：病院によって、５針縫ってもらった。傷口はこまめに消毒し、１週間後に抜糸。

対策：危険なことをしない。

・アレルギー（くま）

原因：米の脱穀を手伝った際に、米を素手で触ったことによりアレルギーが発生した。ほかにも、アリに噛まれたり、草まけによる発疹などもあった。

症状：患部にかゆみを伴うぶつぶつが大量に発生。熱を持つことも。

治療：くまの白血球による。３日ほどでかゆみ、熱はなくなった。

対策:米を素手で触らない。アリや草から肌を守るために、長袖・長・長靴の着用。

・腫れ（サリー、くろっきー）

原因：おそらくアリなどによる虫ささされ

症状：患部が熱を伴い、大きく腫れる。触ると痛みがあることも。

治療：サリー、くろっきーの免疫・体力によって。

対策：できるだけ虫との接触をさける。

・腹下し（ほぼメンバー全員）

原因：環境の変化や、現地特有のウイルスと考えられる。

症状：複数回の下痢。現地でもあったが、帰国後に発症することも。

治療：下痢止めや整腸剤。

対策：現地では、安全な飲み物を飲む。

【病院でかかったお金】

※前もって保険に入っているので、帰国後申請すればほぼ全額保険がおりる。

※１ペソ＝約３円

・とっくん：計４０００ペソ（緊急で行ったために、深夜料金として少し高めだった。治療費３０００ペソ、クスリ・包帯代１０００ペソ）

・かよ：計８００ペソ（診察料５００ペソ、薬代３００ペソ）

【全体的な病気・けが対策】

・しっかりとした食事・休養をとる

・虫さされがかゆくてもかかない

・蚊対策として蚊よけクリーム（OFF）の使用

・保険に必ずはいる

・医療バックに大量のガーゼ・消毒、ムヒを入れる

・早めに病院に行く

＜会計報告＞

今回のキャンプの個人負担

・航空券代　…　57,605 円

・保険加入代　…先発；9,010 円

　　…本隊；7､090 円

・ワーク費　…　10,000 円　）◎下に詳しく記す

・生活費　…　5000 ペソ　）

・個人自由費　…　10,000 円以上

・VISA 代　…　2020 ペソ　　合計　…　先発；約 95,569 円＋個人自由費

（先発のみ）　　本体；約 88,195＋個人自由費

＜レート　3680 ペソ＝10,000 円　…　1 ペソ＝2,7 円＞

◎ワーク費

200,000 円(1 人 10,000 円×20 人)＋150,000(助成金)＝350,000 円を予算にしていた。

※今回、ワーク費の中にロクロクさんのガソリン代(1 日 400 ペソ)と給料（１日 300 ペソ)、合計 50,000 円も含んでいるので、実質マテリアル代は 300,000 円。

◎ガソリン代

400 ペソ／1 日　×　27 日　＝　10800 ペソ（約 30,000 円）

（多めに）

◎給料

300 ペソ／1 日　×　27 日　＝　8100 ペソ（約 20,000 円）

合計

約 50,000 円

※3700 ペソ／10,000 円と予想

でも、そのときのレートは 3680 ペソ＝10,000 円だったので、ロクロクさんに渡したお金は、全部で 18400 ペソ。

（マテリアルなどの内訳はワーク報告で…）

最終的な残りは、117712 ペソだった。

◎生活費

90000 ペソ（１人 5000 ペソ×18 人）＋7000 ペソ（途中で帰った 2 人からは 2000 ペソ、3000 ペソしか回収していない。また、めぐからも 2000 ペソ回収した。）＋88.25 ペソ（下見の残り）＝97088.25 ペソでやりくりした。使ったお金は、全部で 93614.5 ペソ（4580.723 ペソ／人）で、最終的に 3473.75 ペソ余った。

※共同生活中の食費は、１日１人１０ペソとしていた。

＜詳しい内訳＞

・食費（Home Stay 費は含んでいない）

合計；6681.25 ペソ（334.06 ペソ／人）

・Home Stay 費

合計；7045 ペソ（750 ペソ×４組８人＋500 ペソ×１１人=8500 ペソが予算だったが、全部で 1455 ペソ余った。）

・交通費

合計；36247 ペソ（1812.35 ペソ／人）

・生活費

合計；11913.25 ペソ（595.66 ペソ／人）

・ホテル代

合計；14575 ペソ

・イベント費（Japanese Festival）

合計；747 ペソ

・税金

合計；9900 ペソ（550 ペソ／人）

・カピタンに…感謝 Money

合計；6506 ペソ

◎Mansaha-on

・ウェルカムパーティ代（音響など…）　… 300 ペソ

・毎日のお昼代（Work 中などの…）　… 1000 ペソ

・レーンビーチへの貸し切りバス代　… 1000 ペソ

・帰りのキャブ代（Mansaha-on→Matag-ob）　… 100 ペソ

◎San.Sebastian

・モルティキャブのガソリン代　… 1306 ペソ　(※ビーチの往復→1000 ペソ)

・毎日のお昼代（Work 中などの…）　… 1000 ペソ

・お昼代@レーンビーチ　… 500 ペソ

・フェアウェル代　… 300 ペソ

＜レート　3680 ペソ＝10,000 円　…　1 ペソ＝2,7 円＞

※最初、先発がＣｅｂｕに到着したときのレートは 3500 ペソ＝10,000 円（1 ペソ＝2,9 円）だった。しかし、帰るときには、約 4000 ペソ＝10,000 円（1 ペソ＝2,5 円）にまでなっていた。上記したレートは、Work で使うマテリアルを買ったときのレート。よえに、それを基準として考えている。

＜遊び＞

海水浴

3 月 16 日(日)　Lane Beach にて

・　両村のバランガイオフィシャルおよび仲のいい人達を連れていった

・　交通手段はチャーターバス

・　食事は村人達が準備

セブでの一泊

☆ホテル

・　部屋　　…　１８人/４部屋
・　ホテル代　…　７７００ペソ
・　設備　　…　温水、便座完備、人数分のベッド

☆セブのマクドナルド

・　日本とメニューがまったく違う
・　お米文化を象徴するかのようなメニューがたくさんある
・　日本のマックよりきれいである

☆打ち上げ

・　費用　…　2568 ペソ
・　リーダーであるなみの誕生日お祝い
・　焼き鳥をおなかいっぱい食べた
・　違う村でステイしていたメンバーがみんな集まって話せた

☆ダウンタウン

・　露店で初めてのジュースや食べ物を満喫できる
・　買い物では様々なものをディスカウントしてもらったりできる

＜他己紹介＞

なみ(San Sebastian:全体リーダー)

リーダーとしての責任感がとても強い人でフィリピンとマイケルをこよなく愛する女の子です。普通の話をしていると見せかけていつも何気なくマイケルの話に持っていくその話術。。。誰もマネができません。

リーダーとして持ち前の機転を利かせてサンセバメンバーを引っ張ってくれました。見た目はキャリアウーマン、中身は恋するかわいい女の子。それがなみです。(さよこ)

言葉にできない。ラーラーラ　ララーラ。(引用：小田和正)(くま)

ゆみこ(Mansaha-on:マンサハオンリーダー)

はじめにマンサハオンのリーダーにゆみこがなったときは正直「えっ」と思ったのを今でも鮮明に覚えています。どちらかというと感情が入りすぎるところがあるので(しかも嫌いな魚のスープを嫌いといわないほどに頑固だし)リーダーとしては実際どうなんだろーって。

…が、最初は気負いすぎていたところもあってしかも不安定だったゆみこも後半には立派にリーダーをこなしてくれていました。楽しいキャンプを一緒に作れて大変良かった。ホント良かった。さよなら、さよなら。…さよなら。(だいどー)

いっしー(Mansaha-on:ワークリーダー)

いっしーは本当に頼もしいワークリーダーでした。そして彼女のおかげでこのワークキャンプが成功したといっても過言ではありません。上に立つ者をいつも強く支え、メンバーには優しく気を配り、精神面での医療係でした。そんないっしーはコミュニケーションの達人！冗談を言って場を盛り上げ、誰とでもすぐに仲良くなれるいっしー、彼女の周りはいつも笑いがあふれていました。Mansaha-onでいっしーを知らない人はいないでしょう。酒を飲んで凶暴化したり、かと思えば恋愛してキュートになったり、いろんな顔を持った女。いっしーと一緒にキャンプをつくれて本当に幸せでした。(ゆみこ)

だいどー(Mansaha-on:記録)

だいどーとはとりあえず寝るとき以外は常に一緒にいたような気がします。お酒・タバコなど一緒にいる要因はそこそこあるのですが、一番の要因は「マリンスノウ」でしょうね。だいどーはよく写真をとっていました。これからも美しい写真を撮っていってほしいものです。だいどーのもっている視野は素敵であると思いました。これからはきちんと大学に通って頑張ってください。異常。(のろ)

サリー(San Sebastian:会計)

サリーは下見・本キャン両方参加し、フィリピンキャンプのプロジェクトに１から関わった罪な女です。あ、罪な女というのは、サリーの可愛さで何人ものフィリピン人が落ちていったからです。サリーは、周りを見れる女です。しっかりしてる女です。いい女です。いい女すぎて、罪な女なのです。結局は、どう転んでもサリーは罪な女なのです。(なみ)

かよ(San Sebastian:イベント)

ロンドンに留学していたあなたの英語力にはホントに脱帽でした。
彼女は一番美しいドラッグ…誰もを魅了した。
あの日あの時あの場所でのうんこという名のマジックを見たとき…ボクの赤い実ははじけた。夏も下見がんばって。うんこの神様より。愛を込めて。
アオダイショウ・・・・・サラマ。キミとこれからも仲良くできることを切に願う。
例えウンコだとしても、仲良くしてくれたら、これ幸い。(くろっきー)

クリちゃん(San Sebastian:ワークリーダー)

くりを一言で表すなら「マロマロ」。ニックネームまでが放送ギリギリ。ジュビーをくまから奪った下衆男くんです。でも、そんなくりだけど、ワークリーダーとしてみんなをしっかり引っ張ってくれました。毎朝男衆の中で一番早起きし、ワークの準備をしていた･･･くりがいなければワークは完成しなかった！そう思います。また、セブでは持ち前の嗅覚をフルに活用して夜のソロイソロイを盛り上げてくれました。くりの「ピンクい灯りがあるとこを目指せばいい」は名言です。チーン。(とっくん)

れいこ(Mansaha-on:会計)

れいこは春から大学生と思えないほど、責任感が強くしっかり者！残念ながら妹キャラ脱却しました。会計・ホームステイ係・映作・ホテル係など数々の役職をこなしたれいこ。いつもみんなのことを考えて、頑張りすぎってくらい頑張って、れいこがいなかったらこのキャンプは成功しなかった。そしてそんなれいこはノリが最高！いつもキャンパーも村人も中心になって盛り上げてたよね。れいこと歌いながらしたワークは忘れません。れいことキャンプできたことに感謝感謝。Daghan Salamat!!
(ゆみこ)

ちゅーまん(San Sebastian:保健)

ちゅーまんはいっつも皆の体調管理に気を配ってくれていました。やばいくらいに皆の世話をやいてくれて、サンセバメンバーは元気に過ごすことができました。サンセバメンバーの皆のおかげでいい思い出いっぱいつくれたのも、ひいてはちゅうまんのおかげです。ちゅーまんがいてくれて本当によかった！みんなの怪我も病気も悩みもむちゃぶりも全部面倒見てくれて"Daghan Salamat"!(みさき)

のろ(Mansaha-on:イベント)

ワークで大活躍していたのろは誰がなんと言おうとムキムキで半裸です。フィリピン人よりもずっと強いかもしれません。いつも行動を共にしていました。泥酔して大泣きするいっしーの処理をしたり、こんちゃんを諭したり、酒飲んだり…。ホームステイ最後の夜の、暴れ狂う酔っ払い事件は大傑作。大爆笑。あ、鉄人だとか元気君だとか言われていたそんな彼も実は最後らへん熱出してました。…これ内緒？(だいどー)

さよこ(San Senbastian:イベント)

トイレに行く時、フィリピン人から男の子に何度も間違えられたさよこ。。。そんなさよこは見た目のかわいさとはｳﾗﾊﾗに、男の子に負けないくらいの強い芯と責任感の持ち主です★でも。。。おなかと魚介類には弱かったよね(笑)さよこは私と一緒にみんなにかくれていっつもお菓子を食べていた“こそ食い仲間”でもあります!!フタリで買いに行ったお菓子の量は半端なかったよね!!。。。だからおなか壊したのかな。。。(笑)あと、さよこはダンスをみんなに指導していてフィリピン人からはダンサーに間違えられてました♪まぁ、私がそんなことを子供たちに言ってしまったせいでもあるのですが。(笑)(サリー)

しんちゃん(Mansaha-on:保健)

グワッポーとは現地の言葉でかっこいいという意味。ワークする時、バスケする時、食べっぷり、何をとってもグワッポーなしんちゃん。現地の girls 達には「しんちゃんグワッポー！」とさんざんもてはやされ、ハートをがっちりつかんでいた・・・ウラヤマシイゼ・・・。ところがフィリピン生活開始一週間後、再再試の通知。がびーーーん。留年の危機。急遽帰国。しんちゃんって、、、、、、おばかさんね（＾ｕ＾）

子供たちにあげるリメンバランスに自分の名前を“Chinchan”と書いてしまうおっちょこちょいなしんちゃん・・・、おばかさんね。

しかし、どんなに疲れていても休むことなくワークにいき、どんなに服が汚れても気にしない。重いものを持っても弱音一つはかない。好奇心旺盛で、険しい山道でも一人でどんどん進んでいく探検家。村人とも積極的にコミュニケーションをとり、誰よりも人気者だった。しんちゃんはそんな熱い男です。(たろー)

うーさん(Mansaha-on:イベント)

今回のモテモテガールうーさん。何人もの若者のハートを射止め、おき場所に困る不思議花束を贈られていた。実は私もうーさんが好きだったんだけど、自信が持てずにいました。だから今言わせてほしい。『うーさんが好きです。で

も、KILL・BILL のほうがも～っと好きです。』なんか、とっくんポイズンが出てるのでそろそろ止めときます。さらま。（いっしー）

くま(San Sebastian:イベント)

きっと９割がたの人間にとって、クマは「こわい兄ちゃん」な気がします。まぁ、実際こわいです。・・・嘘です。面白くて非常にいいやつです。こわい兄ちゃんなんて思ってごめんね。クマは、このフィリピンキャンプのキーパーソンでした。どこにいても存在感発揮しまくってました。クマの面白さは、国を超えたね。クマは、bad でも crazy じゃなくて、good で funny でした！！（なみ）

とっくん(San Sebastian:記録)

とっくんはいいやつと思うよ笑

毒はくけど、それもとっくんなりの絡み方と思えばアコはあなたに言われた数々の毒を許します。でも意外にもとっくん自身がナイーブやったりする笑。とっくんは滑りながらもサンセバを盛り上げてくれたし、周りの状況、人間観察も上手でなんだか大人やと思いました。サンセバのリメンバランスもたくさんできてよかったね☆（かよ）

くろっきー(San Sebastian:イベント)

「ありがとう～」と訳の分からんイントネーションと変な民族衣装でフィリピンに乗り込んできたチキン野郎。でもレニーボーイと宇宙語でコミュニケーションをとる凄いヤツ。

うんこ漏らして、一番オイシイとこ持っていったこすいヤツ。夜な夜な飲み明かして分かったこと。「面白いヤツ。」セブのホテルでチキン脱出していた事を事後聞いて悔しかったです。（くりちゃん）

じょえ(Mansaha-on:会計)

本名は竹添由貴なのに、竹添じょえと書かれていても誰も気付かないほど、「じょえ」の名は強い！身長が高くてクールなお姉さんかと思えば、モー娘。SPEEDを熱唱します♪そんなじょえは、「まじごめ～ん」「本気ソーリー」と謝りながらもあるフィリピーノボーイのハートを射止め、最も意外な愛(？) を孕んだキャンプを送っていました☆(れいこ)

たろー(Mansaha-on:イベント)

私の友達と名前も一緒！性格も一緒!　そしてその友達が私と似ている…　つまり三段論法により彼は私と似ていました。　私が皆に片づけが出来ないといっているとき一人だけ私を構ってくれた。　また、私がじょえとその彼氏のいちゃいちゃに困ってるときもいつも助けてくれました。　だからじょえと同じようにお兄ちゃんみたいな感じかな?　だよね?(うーさん)

みさき(San Sebastian:会計)

みさきはよく食う、よく遊ぶ、よく笑う、よく絡んでくる!!
KYと言われるもアコは自分の思いをぶちまけるみさきが大好きです。
日々、ビサヤ語を身につけ、村にはたくさんのいとこ・家族をもち、アメリカーノ家をこよなく愛するみさきは健気で萌えでした。いつも元気で、でも相手の気持ちを一番に考えるみさきはホントいいやつ。
だいすきです。(かよ)

こんちゃん(Mansaha-on:イベント)

こんちゃんは超マイペースで、何を考えているのかわからないことが多々。でも、Workの時には、みんなが仕事がなく休んでいる中、1人、自分はWorkをしに来たのにまだ何もしていないと言って、働いているフィリピン人の側に立って、何か自分に出来ることがないかを探すような一面も。FIWCの国内活動係としてもしっかり働き、自分の仕事や役割に対する責任感はあります。ただ、集団行動は少し苦手かな。(しんちゃん)

＜キャンパーの感想＞

なみ

私が初めてフィリピンキャンプに参加したのは去年の春休み。フィリピンは、何をしても新鮮で興奮に満ちていた。しかしそれと同時に、何も出来ない自分に気付いた。自分はこのプロジェクトに必要のない人間ではないか、そればかり考えていた。しかし、フィリピンキャンプは、そんな無力な私をも変えてくれた。小さなことでもチームに貢献できるように頑張っていたら、いつのまにか当時のリーダーに、「ナミになら安心して仕事を任せられる」と言われるようになっていた。フィリピンキャンプに参加したことで、貴重な経験をし、自分の無力感を感じ、そして新しい自分を発見することができた。そして、この一年をフィリピンキャンプリーダーとして捧げることに決めた。

しかし、ただの「自分探し」だけで終わらないのが、このフィリピンキャンプの魅力だと私は考える。というよりむしろ、ただの「自分探し」だけで終わってはいけないのが、このフィリピンキャンプであるのかもしれない。

今回、私はフィリピンキャンプ４代目リーダーとして一年間プロジェクト作りに携わった。

学生がただ自分探しをするための「自己満キャンプ」は絶対に作りたくない。けれど参加する学生には、私が初めてのキャンプで経験したこと以上の興奮と感動を得て帰ってもらいたい。この二つの目標をどうしたら同時に達成できるのか。私は、この二つの目標を同時に達成するために、「チーム作り」に一番重きを置いた。メンバー同士が仲良くて、バカなことも一緒にやれて、そして自己満に走り過ぎているメンバーを優しく叱れて、かつプロジェクトのことをみんなで深く真剣に考えられるようなチーム･･･。そんなチームが作りたくて、この 1 年間、メンバーを見ることに努力したつもりだ。けれどリーダーという立場からは見えないところも沢山あった。そんなときは古株メンバーに相談した。古株メンバーは私の弱いところをよく知っていて、本当にお世話になった。ありがとう。

今回のキャンプは、素晴らしいメンバーに出会えて、私の目標としていたチームに限りなく近いチームを作れたと感じている。このチームとは、ＦＩＷＣのメンバーだけでなく、村の村長さんを初めとした村人達、現地 NGO ノルウェルデパイのスタッフ達も、メンバーとして含んでいる。ほぼ毎日問題が発生したキャンプだったけれど、素晴らしいチームだったからこそ、乗り越えられたのだと信じている。私は今回、このチームのリーダーを務めたことを心から誇りに感じている。

「自己満キャンプ」だけでは終わらない魅力的なキャンプは、どうしたら作っていけるのか、これからも新しいメンバーと共に考えていきたい。

このキャンプに関わった全ての人たちに・・・Daghang Salamat!!!!!

ゆみこ

今回は mansaha-on のリーダーを任せられたキャンプであり、正直自分に出来るのか不安でいっぱいだった。今振り返っても私はリーダーらしいことを何一つできなかったかもしれないし、本当に頼りなかったかもしれない。しかし一つだけ自慢できることは、私は最高の仲間を持てたということだ。この仲間の一人でも欠けていたらワークは絶対に成功しなかった。個性豊かなみんなに何度も助けられたし、だからこそ楽しい日々をおくることが出来た。去年の下見の時に mansaha-on 村にワークすることに決まったのはそもそも私の一存から始まったかもしれない。この思いにこれだけ素晴らしい仲間達がついてきてくれたこと、これ以上に感謝すべきことはない。

このキャンプで私が一番感じたのは今回のテーマでもある「愛」だった。我々はたくさんの人々に助けられ支えられているからこのキャンプは成り立っていることを切に感じた。特に mansaha-on 村の村人は我々をとても理解してくれて、心からの信頼関係を築くことが出来た。三回目の滞在でそこにある愛がどんなに深いものだったのか思い知った。タンクを作って水を行かせたことで、私たちなりの彼らに対する愛の形を残すことが出来たのではないだろうか。たくさんの苦悩も問題もあったが、これを最高のメンバーと成せたことは私の一生の誇りである。メンバーに、村人に、関わってくれた全ての人々に心から感謝し、尊敬している。Daghan

Salamat!!!!

たろー

私は、今回初めてフィリピンキャンプに参加した。出発前は不安の中に楽しみがところどことまじっていた感じだったが、今では、満足感と、達成感しか残っていない。日本では体験できないようなこと、また、日本に住んでいては決して思いはしないだろうと言ったことや、違った感じ方をしたことがたくさんあった。

蛇口をひねればきれいな水がでてくる。トイレが終わればレバーをひいて流す。ガスコンロで料理をする。コーラは冷たい。

そんな当然のことが当然ではない世界。一家に一つ水道が通っているわけではなく、飲み水をくむために、20 分ほど歩かなければならない。トイレに紙は流せない。レバーはなく、用を足した後は自分で桶で水をすくってながさなければならない。料理する時は火をおこし、まきで料理をする。冷蔵庫がある家は少く、コーラはぬるいまま飲む、水も当然ぬるい。

驚きの連続だった。

現地の人とふれあい、お互いつたない英語でなんとかコミュニケーションをとることはできた。子供がたくさんいて、子供は年齢関係なくみんな仲がいい。仲間外れやいじめなどは存在しない。子どもは子ども、大人は大人、ではなく、子どもも大人もみんなで一つのまとまり。誰の家でも自由にあがりこみ、他の家の子どもでも我が子のようにかわいがる。すばらしい社会だと思った。隣に住んでいる人の顔も知らない、小学生が犯罪に巻き込まれるような日本ではまずありえない。

そしてなにより私が経験できて良かったと思うことは、現地のひと、そして現地の人のあたたかさに触れることができたことだ。大人子どもに限らず、誰しもが優しく、紳士的だった。険しい山道でこけそうになればすっと手をさしのべてくれる。重い荷物を持っていれば手伝ってくれる。家の前を通っただけなのにご飯を食べていけと誘ってくれる。雨が降れば家の中に入れと言って雨宿りさせてくれる。つい何日か前までは日本でタクシーの割り込みに腹を立てていた自分、バスの席に座り、立っているおばあさんにどうぞの一言がいえない自分の小ささにとてもはずかしさを覚えた。

わたしは、このキャンプ、本当に成功だったとおもう。こうやって成功することができたのも、20 人のＦＩWCメンバーと一緒からだったからだ。参加の理由はばらばらだったにしろ、たまたま集まった20人。彼らがいなければこのキャンプはこんなにもいい思い出にはなっていなかっただろう。出身も歳も大学も異なる人たちが、水道を作るという同じ目標をもって集まり、何か月も前から準備をすすめ、三週間一緒に過ごしたのだ。そういう意味で私はこのＦＩＷＣのメンバーと出会えたことこそがすばらしいことだと思う。このキャンプに行くことをきめたのも出会いがあったからこそ行けたのだ。学祭でなみと再会して

いなければキャンプに行くことはなかっただろう。だいどーを芸工の授業で見ていなければこの団体に興味がわかなかっただろう。このキャンプでもそうだったが、いろんな人と出会い、同じ時間を共にした。どこでどんな出会いがありそれが思いもよらないところでつながっていくかはわからない。なみは高校の後輩で、お互い顔は知っていたが、話したことはなかった。去年の学祭で友達を通してはじめて話をした。だいどーは去年たまたま私と同じ授業をとっており、その授業に彼は友達も居ず、くらい人だった。しかしＦＩＷＣの中にいるだいどーはまったく別人だった。この団体はこんなに楽しいのか。私はキャンプに参加することを決めた。ひょんな出会いが私にこんなにもすばらしい経験をもたらしてくれた。

フィリピンに行っている間家族やバイト先に迷惑をかけただろう。いろんな人の支え、たくさんの人とのつながりで私はいい経験をさせてもらうことができた。ＦＩＷＣメンバー、フィリピンで知り合った人、そして家族。いろんな人に感謝の意を表したい。

最後になりましたが、感想文にこんな長い文章を書いて申し訳ございません。

そして幸いにもこの文章がキャンプへの参加を迷っている方に読まれることがあったのなら私はぜひ参加することをお薦めする。お金では決して買うことのできないなにかがきっとある。

各種連絡先

＜損保ジャパン＞（ネットで申し込める海外旅行保険。出発 1 週間前には申し込むこと。）

http://www.sompojapan-off.com/

＜Bureau of Immigration (ビザ申請先 in Tacloban)＞

住所：City Engineer Compound, Justice Romualdez St. Tacloban City 6500

電話番号：053-325-6004, 053-556-9960, 0916-734-3808

オフィスアワー：月～金　8:00-12:00、13:00－17:00

ビザ申請に必要なもの：

パスポート、入国スタンプのついたページのコピー 1 部、顔写真のページのコピー 1 部、2020 ペソ

＜CEBU IMMIGRATION FIELD OFFICE＞（ビザ申請 in Cebu）

住所：P. Burgos St., Tribunal Mandaue City

電話：　032-345-6442 to 4 o Fax: 032-345-6441

Airport: 032-340-1473 or 340-0751

＜Northwestern Leyte Development Parents Association Inc.＞

住所：281 Mabini Street, Ormoc City, Leyte

電話番号：053-561-1474 (NorWeLeDePai)

053-561-1454 (World Vision)

代表者：　Miss. Ann Loraine Narboada (NorWeLeDePai), Tyen_nam@yahoo.com

※下見やキャンプの日程が決まったらできるだけ早く、出発前までに必ず上記の電話番号とメールアドレスの両方に連絡する。

2008 年度 FIWC 九州担当者：　Mr. Michael (NorWeLeDePai) Mhikets_81@yahoo.com

※Michael は、NorWeLeDePai の Matag-ob 市担当の人

＜Municipality Matag-ob　市役所＞

インフォメーション係：Miss. Ligaya Pastor

エンジニア代表：Miss. Medina Aldaya

電話番号：053-554-2074、053-554-2072(市役所に隣接する警察署)

月～金　8:00-12:00、13:00－17:00

※代表の電話につながるので、上記の名前を言ってつないでもらう。

＜CLINICA GATCHALIAN＆HOSPITAL＞

オルモックにある大きな病院。レイテ島で病気になったらここを使う。24 時間開いてる。

住所：J.T.Kangleon St. Ormoc City

電話：053-255-2203